

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	帰国・渡日の子どもと親に対する就学前サポート事業							
団体名	大阪府教育委員会事務局市町村教育室児童生徒支援課							

***** 事業のポイント *****

大阪府では、帰国・渡日の子どもたちが増加している状況の中で、小学校への就学が大きな課題となっている。その背景に、就学に関する情報の不足や、日本語がわからないため情報にアクセスしづらい状況があることから、日本の学校制度や学校生活について説明した「小学校入学準備ガイドブック」を 8 言語で作成するとともに、「帰国・渡日の子どものための小学校入学準備ガイダンス」を実施した。

助成年度 区分	平成19年度、20年度 地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	4,525千円 (2年分)
------------	-----------------------------	------	------------------

事業の内容、成果等

● 事業実施の背景

大阪府では、府内NPOとの協働により、小・中学校に在籍する帰国・渡日児童生徒やその保護者を対象とした中学校卒業後の進路ガイダンス等の取組みを行っており、その参加者(保護者)からは、文化や制度の違いから、日本の学校制度がよくわからない、どのような就学準備が必要なかわからない等の不安を訴える声が多くあった。

また、小学校に就学していない外国人児童の報告が府内においてもあることに加え、渡日する子どもたちの小学校への受入れは、市町村によって対応に差があり、その改善も課題となっていた。

このため、就学前の子どもをもつ外国人保護者への情報提供と府内市町村での就学支援施策の充実を主な目的とした「帰国・渡日の子どもと親の就学前サポート事業」として、平成19年度、「地域国際化施策支援特別対策事業」を活用し、就学ガイドブック等の作成及びガイダンスの実施を行うこととした。

本事業の実施にあたっては、府内で帰国・外国人への支援活動に実績があり、日本語指導の専門知識や経験を持っているNGO団体「大阪YWCA」に委託し、事業を実施した。

● 事業の目的

日本での学校生活に不安のある保護者等に対し、その不安を取り除き学校生活をスムーズに始められるよう支援すること。また、その支援を通して、子どもの教育を受ける権利を守ること。

● 事業内容

(1) 小学校入学準備ガイドブックの作成

日本の学校生活について、分かりやすく説明したガイドブックを多言語(8言語)で作成した。

① タイトル

小学校入学準備ガイドブック

日本の小学校に子どもを入学させる帰国・渡日の保護者のみなさんへ

② 言語

中国語、韓国・朝鮮語、フィリピン語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語、英語、日本語

③ 内容

- ・日本の学校のしくみ
- ・小学校に入るまでの手続き
- ・日本の学校生活 1日の流れ／教室の様子／学校の先生／学習する科目
1年の行事／学校生活の中のきまり
- ・学費について
- ・準備するもの



(2) 就学支援ガイダンス

① 帰国・渡日の人が多く住む府内地域で実施した。

(平成 19 年度)

- ・吹田市会場(大阪 YWCA シャロン千里)
平成 19 年 12 月 9 日(日)10:30~12:30
- ・大阪市会場(大阪 YWCA)
平成 19 年 12 月 16 日(日)15:30~17:30
- ・門真市会場(ルミエールホール)
平成 20 年 1 月 13 日(日)10:30~12:30
- ・堺市会場(ビッグアイ)
平成 20 年 1 月 20 日(日)10:30~12:30



(平成 20 年度)

- ・八尾市会場(八尾市立安中青少年会館)
平成 20 年 12 月 7 日(日)13:30~15:30
- ・東大阪会場(東大阪市総合庁舎)
平成 20 年 12 月 14 日(日)10:30~12:30
- ・吹田市会場(大阪 YWCA シャロン千里)
平成 21 年 1 月 18 日(日)10:30~12:30
- ・大阪市会場(大阪 YWCA)
平成 21 年 1 月 18 日(日)15:30~17:30



② 内容

小学校入学準備ガイドブックに沿って、日本の学校生活や準備するべきものなどについての説明を、通訳者をつけて行った。その都度質疑応答の時間をとって参加者からの質問を受付け、教育委員会や小学校の職員などが回答した。

参加者からの質問は、放課後児童クラブの仕組みや費用、学費以外の教材費等の金額、登下校の安全など具体的なことがらが多かった。また、学期途中の編入や、校区の変更を希望する場合、通訳の派遣等個別に対応する必要がある質問も出され、教育委員会のスタッフからの確かな情報を伝えることができた。

③ スタッフの体制

大阪府教育委員会と委託先の大阪YWCA職員のほか、次のようなスタッフに参加を願い、運営に協力してもらった。

- ・ガイダンスを開催した市の教育委員会職員
- ・小学校教員
- ・通訳者(各言語 1 名 × 6 言語 ガイドブック作成の各言語)

- ・保育ボランティア(参加者が小さな子どもを連れてきた場合の保育サービス)
- ・会場ボランティア(会場内での案内、ガイダンスの際の参加者への付き添い、質問への答えなど)

④事前の広報

- ・ちらし配布

(対象)

府内の市町村教育委員会、ガイダンス開催市の幼稚園・保育園・小学校等の施設、大阪 YWCA 日本語教師会
大阪 YWCA 中国帰国者支援交流センター、大阪 YWCA 会員、国際交流団体、社会福祉協議会、日本語教室
国際協力や支援に関わる NGO 等、その他イベント等でのちらしの配布

- ・新聞、雑誌、市報、ラジオ等への広報

華文時報(中国語紙)、同声・同気(中国帰国者定着促進センター機関紙)、吹田市報、門真市報、府政だより
吹田市国際交流協会機関紙、FMcocolo(ラジオ)、AM 放送ぐるーっと大阪(ラジオ)ほか

- ・その他

ベトナム、フィリピン等に関して、大阪に暮らすそれぞれのコミュニティのまとめ役を担う方を通じた広報。

(3) 帰国・渡日児童生徒就学支援ハンドブックの作成

各市町村が帰国・渡日の子どもの就学サポートに取り組む際の手引きとなるよう、Q&A形式のハンドブックを作成した。

①タイトル

帰国・渡日児童生徒就学支援ハンドブック

ー小学校入学準備ガイダンスの実施に向けてー

②内容

- ・小学校入学準備ガイダンスの手引き
 - (ア) 外国人の児童生徒の増加状況
 - (イ) 増加の背景、就学の制度や課題
 - (ウ) 国や府の今後の計画
 - (エ) 就学支援の府の取組
 - (オ) ガイダンス実施上の留意点
 - (カ) 参加者から出た質問
 - (キ) 参加者から出た感想
 - (ク) 市町村教育委員会担当者からの意見
 - (ケ) 就学後の課題
 - (コ) 就学後の府の取組

● 成果

- (1) 就学支援ガイダンスを実施することで、参加した保護者の日本での学校生活に関する不安を軽減できた。
- (2) 市の職員や小学校の教員に参加してもらうことで、具体的で的確な情報を伝えることができた。
- (3) ガイダンス開催に取り組む中で、幼稚園・保育所と教育委員会や小学校との連携が新たに進んだ。
- (4) 保育サービスを実施し参加を促せた。また、同じ小学校に通うことになる子ども同士が事前に顔を合わせられたケースがあり、保護者の満足につながった。

● 将来に向けての展望

- (1) 引き続き、情報を必要としている人に向けた広報(日本に来て間もない人、日本語が十分でない人、集住地域に住んでいない人など)が必要であり、各市町村が継続的に就学支援ガイダンスに取り組むことが望まれる。
- (2) 小学校と幼稚園・保育園との連携や、関係部局同士の横断的な連携が重要である。
- (3) 府が作成した小学校入学準備ガイドブックを参考に、市町村・学校等によって、より詳細な資料(時間割、放課後児童クラブの利用費用等)を用意し、保護者のニーズに沿った情報提供ができるよう、ガイダンス内容の充実が必要である。